

第1回

名取市地域公共交通活性化推進協議会

－ 【資料2】 名取市の交通の現状 －

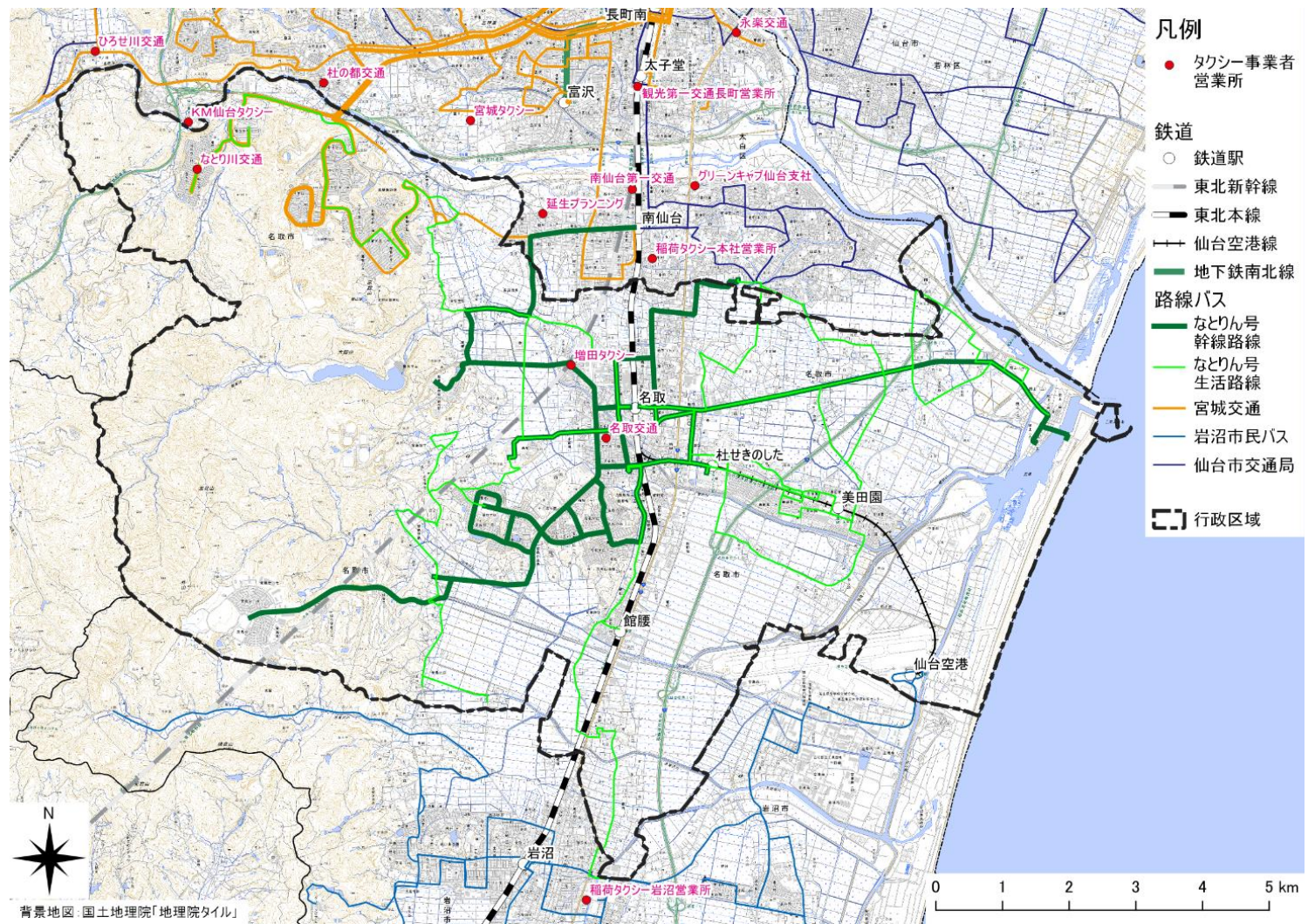
1. 地域公共交通の状況.....	1
2. 地域公共交通による人口カバー状況.....	2
3. 地域公共交通の利用状況.....	3
4. 地域公共交通の維持.....	4
5. 地域公共交通を取り巻く環境.....	5
6. 今後の論点.....	6

令和4年6月2日

1. 地域公共交通の運行状況

鉄道・バス・タクシー・その他の交通モードによる市域内の移動手段の確保

- 鉄道(JR東北本線、仙台空港アクセス線)とバス(なとりん号、宮城交通、仙台市交通局、岩沼市民バス)、タクシー事業者(市内3事業者、近隣市含めると10事業者以上)により市域の移動をカバー
- その他にスクールバスの運行や福祉有償運送等も実施



背景地図: 国土地理院「地理院タイル」

市内の地域公共交通の運行状況

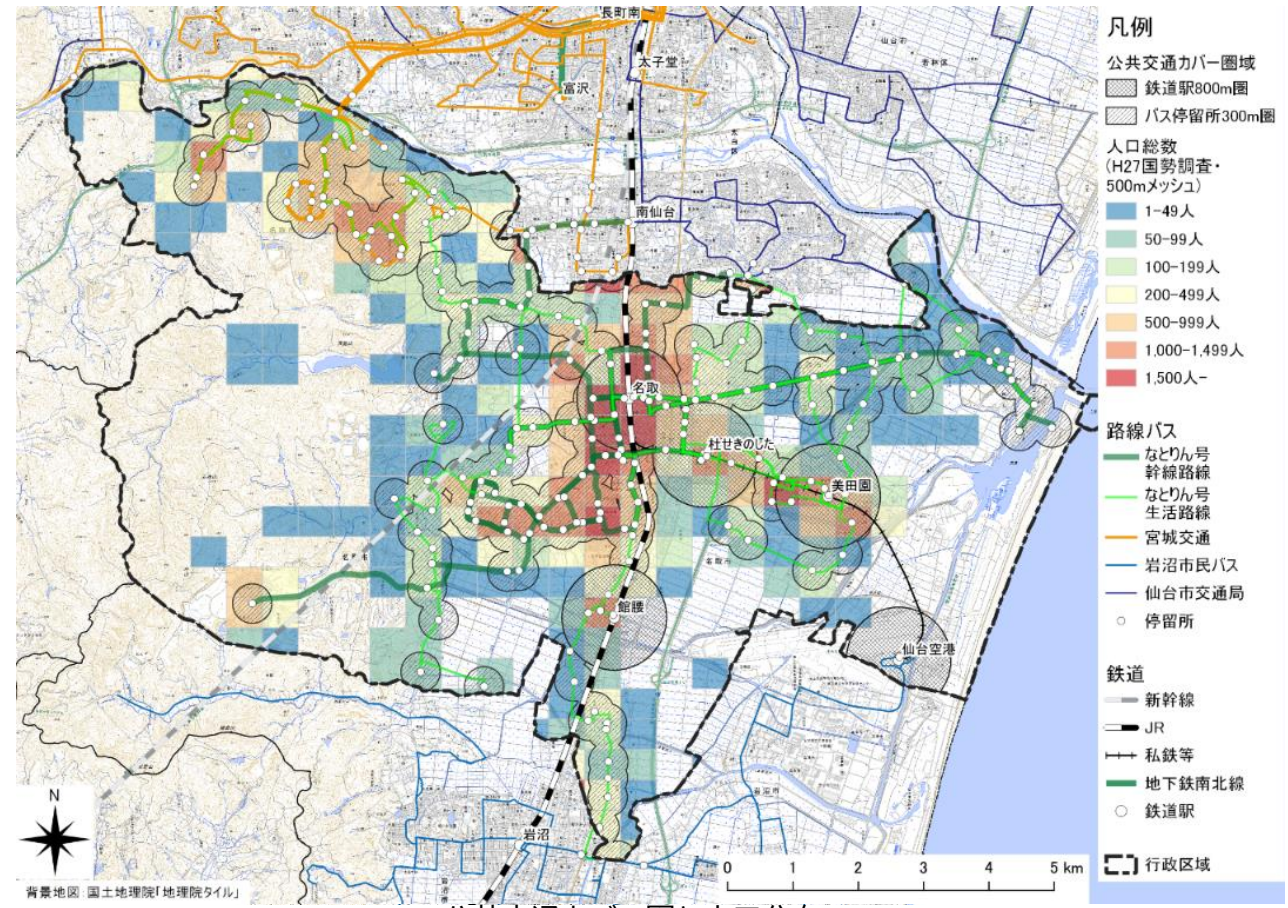
2. 地域公共交通による人口カバー状況

鉄道・バスにより人口の大部分をカバー

- 総人口のうち、約9割は鉄道もしくはバスのいずれかを利用できる環境に居住
- 高齢者についても約9割は鉄道もしくはバスを利用できる環境に居住

凡例	鉄道駅800m圏内 またはバス停300m圏内	バス停300m圏内	公共交通 カバー圏外
65歳以上人口	25.0% 4,076人	61.8% 10,086人	13.2% 2,154人
総人口	29.5% 23,256人	57.9% 45,574人	12.6% 9,928人

0% 20% 40% 60% 80% 100%

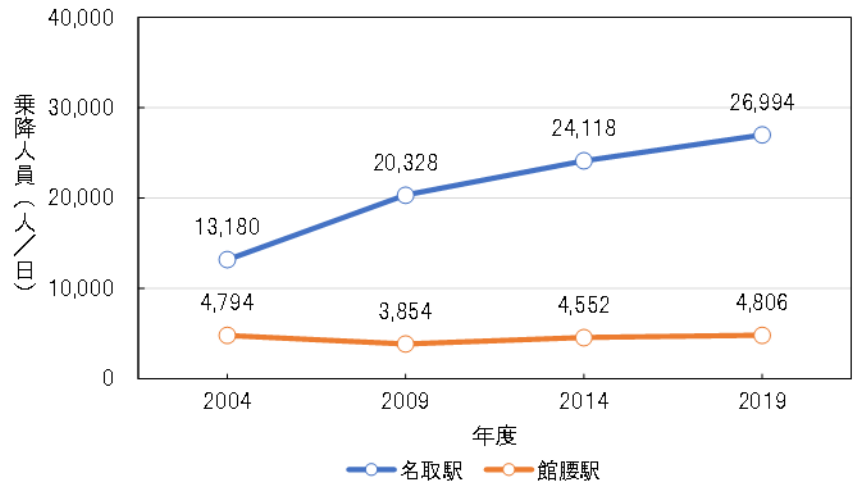


公共交通カバー圏と人口分布

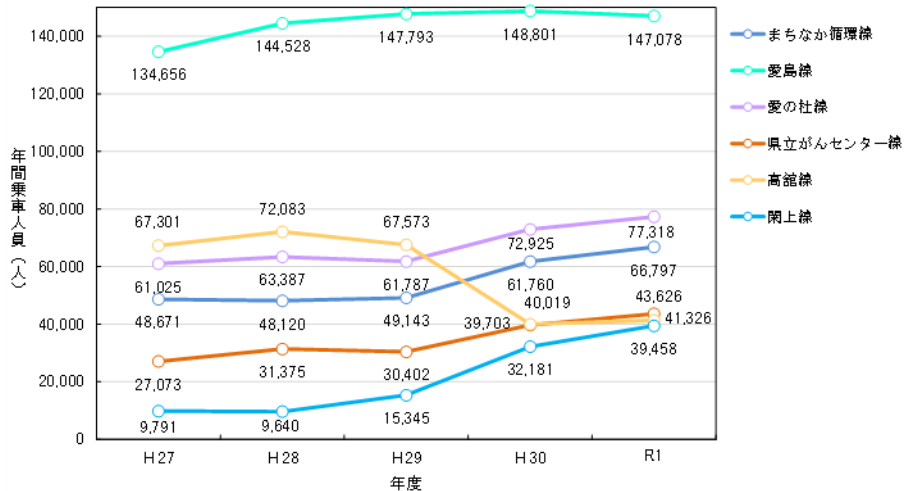
3. 地域公共交通の利用状況

コロナ禍前までは鉄道・バスともに現状維持もしくは増加傾向

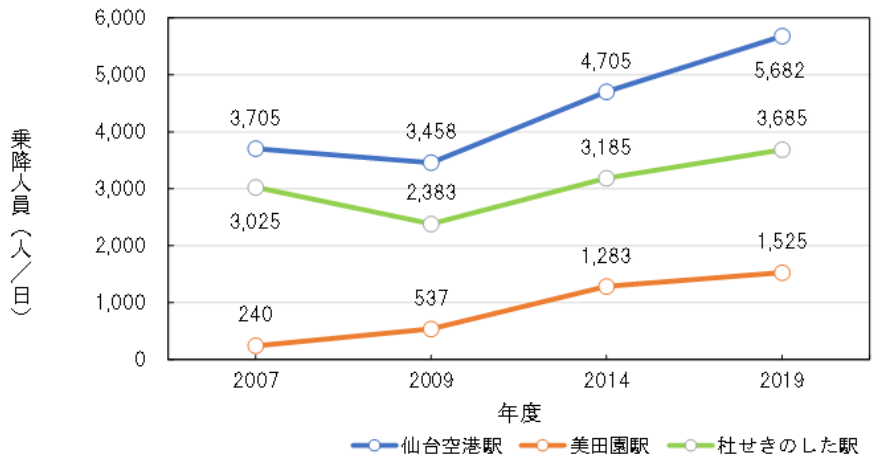
- 鉄道はJR東北線、仙台空港アクセス線ともに利用者数が増加傾向
- なとりん号に関しては、ほとんどの路線で年間乗降人員が増加傾向もしくは現状維持



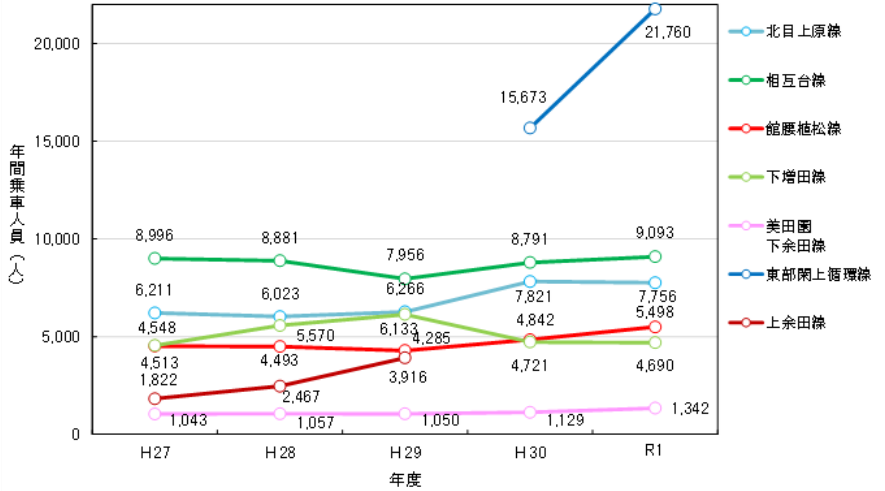
JR各駅の乗降人員



なとりん号(幹線路線)の乗車人員



仙台空港アクセス線各駅の乗降人員

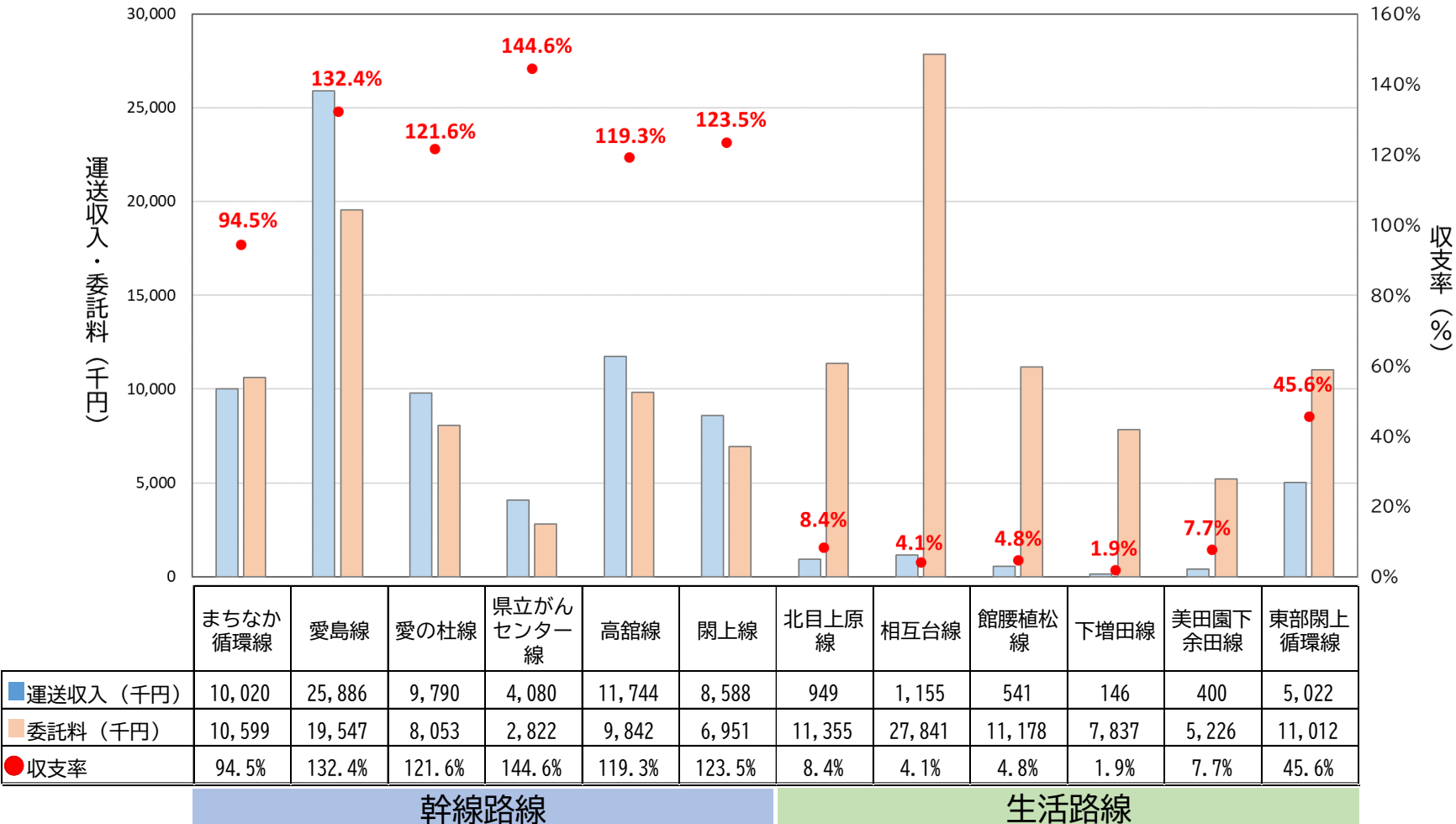


なとりん号(生活路線)の乗車人員

4. 地域公共交通の維持

持続可能な地域公共交通のあり方の検討が必要

- なんとりん号の路線別の運行収支をみると、幹線路線では、収支率(支出に対しての収入の割合)が高く、効率的な運行を実現
- 生活路線では、収支率が低い状態
- 生活路線に関して、利用状況等にあった運行形態への見直しが必要

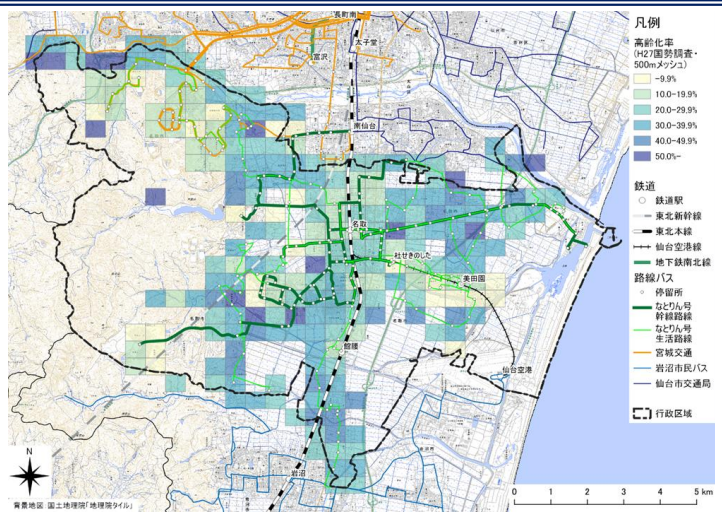


路線別収支率

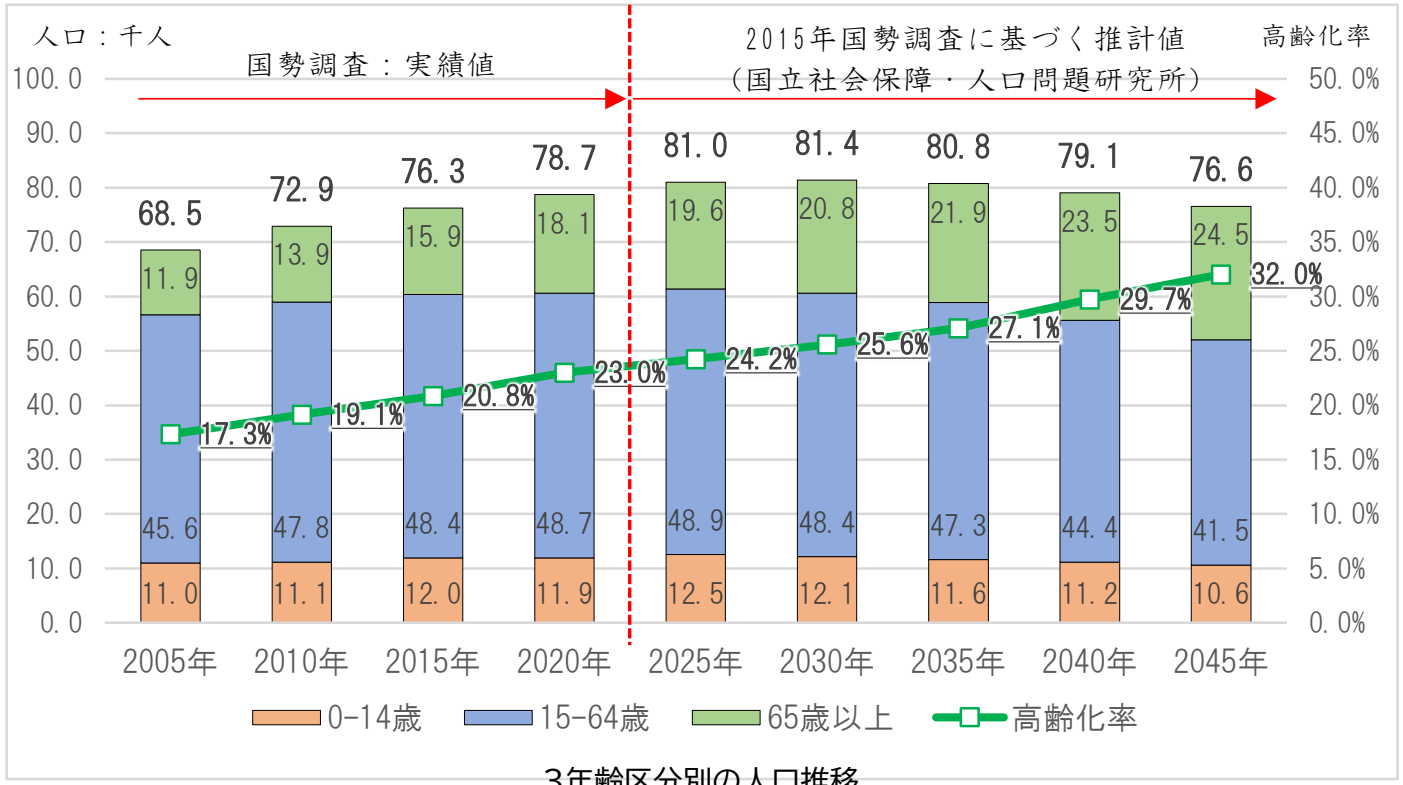
5. 地域公共交通を取り巻く環境

高齢化が進行、将来的には人口減少

- 国勢調査によると、人口は増加傾向
- 年少人口や生産年齢人口の増加もみられるものの、老年人口の増加が顕著
- 北西部の住宅地等を中心に高齢化が進行
- 自然体での人口推計では、2030年度から人口が減少する想定



高齢化率の状況



6. 今後の論点

<強み ~Strong point~>

- ①市域全域をカバーする鉄道やバスのネットワーク
- ②タクシー事業者も複数社が運行
- ③スクールバス等の公共交通以外の移動サービスの提供
- ④バスや鉄道の利用者数は現状維持もしくは増加傾向

<弱み ~Weak point~>

- ①老年人口の増加、高齢化の進行
→通勤・通学による移動の減少
- ②なとりん号の一部路線は収支率が低迷



高齢化や人口減少を見据えた持続可能な地域公共交通のあり方の検討が必要



<論点1>

名取市として目指すべき移動のあり方
→どのような暮らし方や生活を将来像として描くか

<論点2>

市内の複数の交通モード間での役割分担
→誰がどのように移動を支えるか

<論点3>

目指すべき将来像や目標実現に向けた事業の推進体制や評価手法